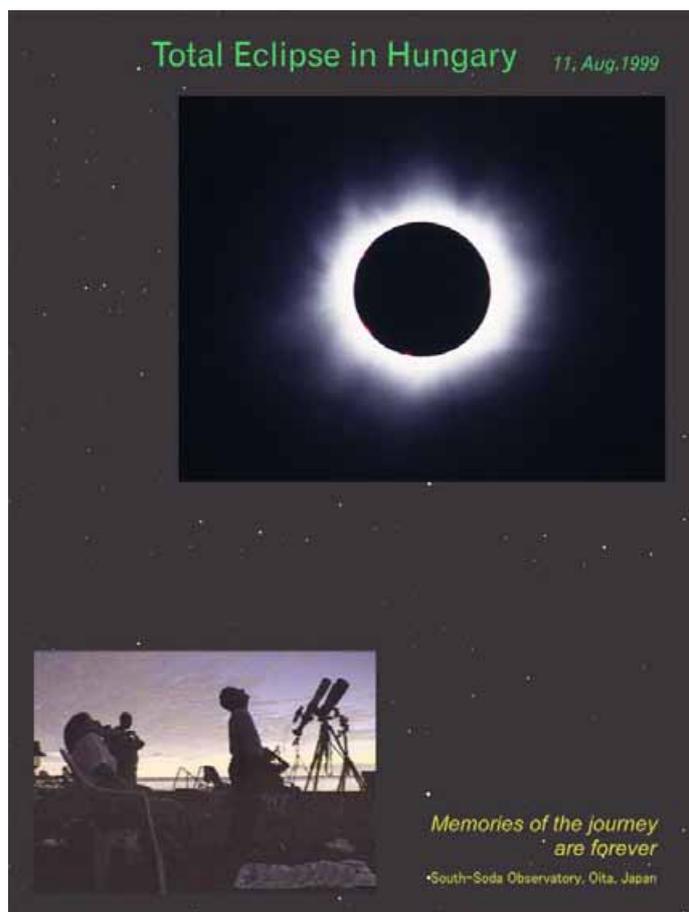


種子島／日食／また曇った！

富成 一郎

これまで 1991 年 7 月 11 日のハワイ日食、1999 年 8 月 11 日のハンガリー日食と海外に遠征してきたが、ついに待ちに待った国内での皆既日食である。

過去の戦績は、ハワイが皆既 1 分前にいきなり厚い雲がやって来て、99%の部分食までは撮影できたものの、皆既は全く撮影できず完敗！ハンガリーでは、始終うっすらと薄雲とも言えないような雲に覆われていて、とりあえず初めて皆既のコロナを観測することができたが、外部コロナまでは撮影できず、まあ判定勝ちといったところ。



左は帰国してから作ってみたポスターだが、ポスター下部の観測サイトをビデオ撮影した写真は、実際はもう少しだけ明るかったかも知れない。(まあ帰国直後で興奮状態だったし、多少演出過剰か?)

一方、今回は厚い雲と雨にたたられて散々だったが、その時に撮影した観測サイトの写真(というよりこれしか撮るものがなかった)が下の写真。下界の暗さはこんなもんだったように思う。

地面の白っぽい荷物を比べると、今回は(ハンガリーが若干暗めの編集なのを考えると)かなり観測サイトが暗くなったことが判る。

本来なら皆既帯に入っている地域はコロナの明かりだけに照らされるので、極端に暗くなるはずだが、皆既でない地域の空の明るさ

(いわゆる 360 度の夕焼け)に照らされるので、それなりに明るくなるのだろう。それを雨雲が遮ったので、今回のように相当暗くなったのではないかと思う。コロナそのものの明るさは、よく満月程度と言われているが、曇った夜は満月の明かりは全く判らないことを考えると、写真を見ても明らかなように、皆既中の下界の明るさの多くは部分食帯の地域の空のせいだと考えてよいのではないか。



今回の皆既日食は国内であるということだけでなく、自分にとってはもう一つ大きな意味があった。それは2人の子ども（といっても随分大きい）と一緒にだったということである。過去の2回は妻と行ったのだが、今回は近場ということもあって、最初は家族4人全員で行くことにしていた。結局、妻の方は他に用事ができたため、最終的には親子3人連れの日食旅行となった次第である。ハワイの時は幼稚園に入るか入らないかという2人の子どもを親に預け、ハンガリーの時は中学生2人に留守を頼み、いずれも夫婦2人の気ままな旅であった。いつか子どもたちにも、この感動を味わわせてあげたい、との思いがやっと叶ったわけであった。（それなのに雨なんでもんな〜・・・まあ、暗くなっただけでも十分感激したけど）



ツアー初日（7/21）

行きがけの高速道路のサービスエリアにて。この時点ですでに雨が降っていたが、まだ楽観的な顔をしている。

ツアー2日目（7/22）8:31 AM

まだ皆既まで2時間以上ある！
決して諦めてはいない、と自分に言い聞かせながら周辺を探索。



ツアー3日目（7/23）

翌日は嘘のような天気で太陽がまぶしかった。まあ、親子3人にとっては、かけがえのない思い出になりました。

これで皆既日食は、
3戦して2敗、1判定勝ち…………。